

家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴	自主学習を促進させる「ガイダンス」と「問いかけ」
-------	--------------------------

国見町立国見小学校

【取組の概要】

家庭学習充実のために、各種手引きの配付・活用を図っている。特に、「自主学習の手引き」にある〈特別メニュー〉には、問題づくりや新聞づくりなど、学習内容を深めることのできる内容が例示されている。また、「教師の問いかけ」により、自主学習を促進させている。

1 取組① 内容・方法を指導しています

(1) ガイダンス機能の充実

① 「自主学習の手引き」の工夫

「自主学習の手引き」には、〈定番メニュー〉と〈特別メニュー〉の2つが例示されている。〈定番メニュー〉には、漢字や計算の練習、予習や復習といった内容が示され、〈特別メニュー〉には、「算数の問題づくり」「算数新聞づくり」「福島県の市町村の特産物や観光スポット調べ」などが示されている。

例えば、「算数の問題づくり」では、「身の回りの出来事を算数の問題にしてみよう。(買い物、時計、面積など)」と言葉が添えてあり、児童が問題づくりを行う際のヒントとなっている。学年が上がるに従って、〈特別メニュー〉に取り組む児童が増えている。

② ノートのまとめ方の例示

年度当初にノートのまとめ方を教師側から例示している。児童はそれを自主学習ノートの表紙裏に添付し、ノートづくりの際に参考になっている。

次第に児童自らが工夫をする姿が見られるようになり、個性的なノートが増えている。

《教師の例示》



《例示を参考にしてつくった児童のノート》



家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴 「子どもに身に付けさせたい力の明確化」と「家庭学習の内容指導」

福島市立森合小学校

【取組の概要】

家庭学習を通して、「自分を知り、課題と向き合う力」を子どもたちに身に付けさせるべく、全職員で共通理解のもと指導に当たっている。学習や生活の振り返りや各種検査・テスト等の自己分析をはじめ、子どもたち自身に課題に気付かせる機会を設定するなどの取組を行っている。

1 取組① 共通理解を図って指導しています

(1) 子どもに身に付けさせたい力の明確化

今年度は、子どもに身に付けさせたい力を「自分を知り、課題と向き合う力」と設定し、全職員で共通理解を図った。普段の学習や生活を振り返り、自分の課題と向き合う子どもの育成を目指している。

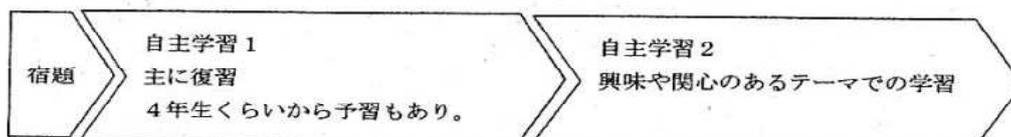
子どもたちが、「自分を知る」ことができるようにするために、高学年においては、各種検査、テスト等の結果を自己分析する機会を設けている。6年生は、前年度実施の県学力調査の結果を自己分析し、各教科で「よくできた内容」「課題のある内容」「今後必要な勉強」の3点について自己を見つめさせ、家庭学習の実践につなげる取組を行っている。

- 期待する子どものことばの例
 - (生活) ついつい寝るのが遅くなる。○○○
 - (時間) 学習時間が少し足りない。
 - (方法) 1ページ自主学习しているけど、なかなか成果が出ていない。
 - (内容) 文章問題でつまづいている。
- 生活の仕方を見直さないと・・・
- 教師の働きかけの例
 - 例) 問題点、課題に気付かせる機会の設定
 - 学習や生活の振り返りができるチェックシート(ノートや、家庭学習カードなど)
 - 高学年・・・各種検査や単元末テストの結果を自己分析してまとめさせる。
 - 新6年生は、県学力調査の結果を自己分析済み。参考にしたい。
 - 中学年・・・学習のポイントのまとめ直し。単元末テストを切り貼りして再挑戦させる。
 - 家庭学習カードには、学習開始時間や時間等を書かせる。
 - 低学年・・・ドリルの間違えた問題番号をメモし、2回目に挑戦させる。
 - あきらめずにやるための励ましや、苦手を克服した達成感を味わわせる働きかけ。

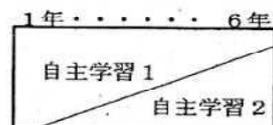
(2) 自主学習の捉え方や順序

以下の内容を、全職員の共通理解のもと、同一歩調で指導している。

宿題 + 自主学习1 (+2) = (学年×10分+10分) の時間



- ・ 低学年の間は宿題を中心とし自主学习に徐々に取り組めるようにする。
- ・ 自主学习1をやらない人は自主学习2ができない。
- ・ 家庭学習には、塾やスポーツ少年団、習い事等を含めない。
- ・ 「調べ、考え、書く」活用型の内容の推進。
- ・ 条件付作文や、自己の課題に対応する内容を学年の実態に合わせ、取り組ませる。



2 取組② 内容・方法を指導しています

(1) 「家庭学習の手引き」の活用

2年生から6年生まで、学年ごとに「家庭学習の手引き」を作成、配付している。
 (1年生は宿題の提示) 自主学習については、3学年から①ばっちりメニュー(国語と算数の苦手なことをなくす学習)、②わくわくメニュー(得意なこと・興味のあることをのばす学習)の2段階で提示し、学習意欲の喚起を促している。

また、②わくわくメニューにおいては、調べ学習や教科の問題作り、読書や、新聞記事を読んで感想を書くなど、「調べ、考え、書く」活用型の学習内容の提案・推進も図っている。

(2) 教師による振り返り・自己評価

子どもたちに自己の取組を振り返らせたり、自己分析をさせたりするだけではなく、指導する教師側の振り返り・自己評価も行っている。

評価については、「家庭学習を充実させるための学校の4つの取組について」、「自己マネジメント力を育む働きかけについて」の大きく2つのカテゴリで行い、できた項目にチェックをする形で簡易的に実施している。

自己分析を行い、学期末までに意識して取り組むことを、それぞれの教師が自己目標として設定し、指導につなげていくなど、家庭学習の充実を目指すショートサイクルに取り組んでいる。

わたしたちも家庭学習の取組についてチェックしてみましょう!

第1節 チェックした日 (6) 月 (5) 日 名前 ()

できた項目の口に「レ」チェックをして、数を数えてみましょう。

1 「家庭学習を充実させるための学校の4つの取組」について

取組1 「家庭学習の手引き」について共通理解を図った。
 宿題の内容や量について、学年の教師間で話し合い、調整した。

取組2 学習内容に応じて、宿題(手習、復習)を効果的に活用した授業を行った。
 授業で学習したことを活用できる場面や方法を紹介した。

取組3 「調べ、考え、書く」を中心とした活用型の宿題に取り組ませた。
 「家庭学習の手引き」を継続的に活用し、学習内容や方法、時間、ノートの使い方などの学習の仕方を指導した。(4月20日以降)

取組4 四中学区の小中学校間で、家庭学習の内容や方法などについて話し合いを設け、共通理解を図った。(学力向上部が振り廻る H29年度は3月実施)
 家庭学習に関する悩みや要望を把握し、相談する機会を設けた。

2 「自己マネジメント力」を育む働きかけについて・・・主に第3～6学年

期待する子どもの姿	
Research 自分を知る	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭での学習や生活の問題点、課題などに気付かせる機会を設けた。 <input type="checkbox"/> 学習や生活の振り返りができるチェックシートなどを活用し、自己診断できるようにした。
Plan 計画する	<input checked="" type="checkbox"/> 学習や生活の目標、計画を立てる機会を設けた。 <input type="checkbox"/> 目標のポイントを掲示するなど、常に意識するよう促した。
Do 自ら学習する	<input checked="" type="checkbox"/> 一定期間の実施状況を記録できる「計画実施表」などを準備した。
Check 確かめる	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日、実行状況のコメントを書くよう促した。 <input type="checkbox"/> これまでの学習を振り返り、成果と課題を明らかにする機会を設けた。
Action 見直す	<input type="checkbox"/> 成果を上げた取組を確認したり、課題を分析したりするよう促した。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善のための目標を明確にする機会を設けた。 <input type="checkbox"/> 新たな目標を基にした計画を確認し、励ました。

3 自己分析

		1学期末までに取組むこと
1 「家庭学習を充実させるための学校の4つの取組」について	5/6	活用型の宿題に取り組ませようとしている。
2 「自己マネジメント力」を育む働きかけについて	7/10	学習や生活の振り返りができるチェックシートを毎日作成し活用させたい。

家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴 「学び方指導」と「保護者の意識の啓蒙」

国見町立県北中学校

【取組の概要】

家庭学習充実のため、5教科で「家庭学習の手引き」を作成しており、全校生が常に目にし、活用できるように「柏葉ノート」に掲載している。また、個別指導の充実を図ることで、生徒たちの学習に対する意欲も高まってきている。

さらに、「家庭学習スタンダード」を配付するだけでなく、各家庭での認知状況等を確認したり、意識を啓発したりする取組も行っている。

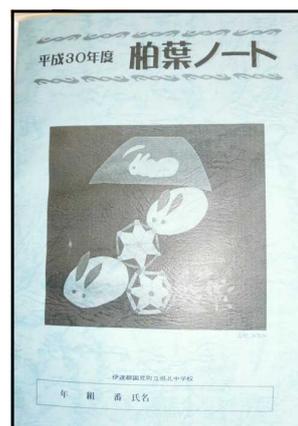
1 取組① 内容・方法を指導しています

(1) 学校独自の生活記録ノート「柏葉ノート」を活用しての学び方指導

「柏葉ノート」に各教科（5教科）の「家庭学習の手引き」を収録し、生徒たちが日常的に手引きを活用できるように配慮している。

また、学力向上グランドデザインに「学習の仕方が分かる生徒」の目標値を80%以上（学習意識調査）と明記し、その具現化に向け、教科ごとの学び方指導に力を入れている。

「家庭学習の手引き」は、各教科で授業と家庭学習をつなげることを目標として作成し、全職員が共通理解を図って指導を進めている。



【「家庭学習の手引き」の内容・構成】

- 1 授業前 予習について
- 2 授業後 復習について
- 3 テスト勉強について
- 4 生活の中における教科での取り組み方について

国語科

《予習と準備》

- ① 教科書の文章を音読する。（ゆっくり、大きな声で、はっきりと！）
※ 詩や短歌、俳句、そして古典（古文と漢文）は、暗唱できるくらいに音読しよう。
- ② 分からない部分や疑問に思うところ、不安なところは印をつけておく。
※ 常に疑問を持って授業に臨むようにしよう。

《復習》

- ① 今日は何なことを学習しましたか : ノートやワークシートなどを見直しましょう。
- ② 授業前の自分の課題は解決できましたか : 疑問点をしっかり確認しましょう。
- ③ ワークの問題などを解いてみましょう : きちんと理解できていましたか。
- ④ 漢字は必ず書いて覚えましょう : 努力して練習しないと覚えられません。

数学科

《予習》

- 次時の授業の予習を行う。
 - ・ 教科書を読んだり、例題を解いたりする。
 - ・ 数学の友を教科書を参考にしながら自主的に進める。

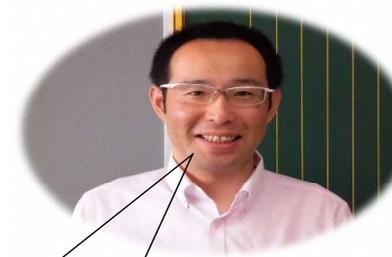
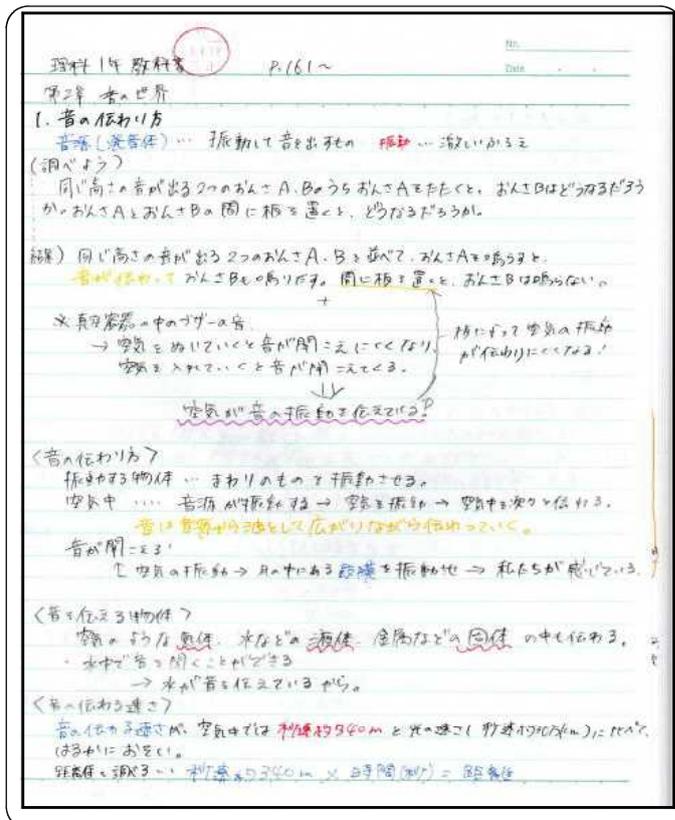
《復習》

- 授業の中で理解できなかったことをその日のうちに確認し、できるようにする。
- 数学の友の問題を解き、授業で学習したことをしっかり定着させる。
- 授業で提示された課題（宿題）に必ず取り組む。
- 「自主学習ノート」を活用する。

※ 「家庭学習の手引き」より一部抜粋

(2) 丁寧な個別指導

学級担任が自主学習ノートの点検だけでなく、よりよい学習となるよう、個別に助言を行うなど丁寧に細やかな指導を行っている。



アドバイスを基に、授業で学んだ内容を再度まとめ直してきました。よりよい学習、よりよいノート作りを目指す前向きな姿が素晴らしいです。

2 取組② 協力・連携体制を築いています

4月のPTA総会時に「家庭学習スタンダード」について、保護者に関心をもってもらうように、以下のような紙面を用意した。穴埋め形式にして提示することで、保護者が各家庭で何ができるかを考える機会となった。

「家庭学習スタンダード」読んでいただきましたか	
<p>学校としては、R-PCDAサイクル（「R：自分を知る」「P：計画する」「D：自ら学習する」「C：確かめる」「A：見直す」）を通して、「自分で学習や生活を改善する力」つまり「<u>○○○○○○○○力</u>」を身に付けることができるように指導、支援をしております。ご家庭では、3つの視点から「できること」を見つけてほしいと思います。</p>	
<p>視点1 「<u>〇の支え</u>」</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを大切にし、お子さんの言葉に耳を傾け、心に寄り添ってよき話し相手になりましょう。 自信をなくしたり、学習成果に不安を感じたりしているときには、安心感を与えてあげましょう。
<p>視点2 「<u>〇〇づくり</u>」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習する場所を整理し、集中できる環境をつくりましょう。 家族と一緒に読書をする機会を設けましょう。 図書館、公民館などの利用や体験活動を促しましょう。 地域行事に積極的に参加させましょう。
<p>視点3 「<u>〇〇づくり</u>」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起きやお手伝いの習慣を身に付けさせましょう。 朝ごはんは、必ず「毎日」、できるだけ「みんなで」食べましょう。 テレビやゲーム、スマホなどをするときのルールを決めましょう。

家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴	「自己マネジメント力」の育成、学校・保護者の連携
-------	--------------------------

伊達市立松陽中学校

【取組の概要】

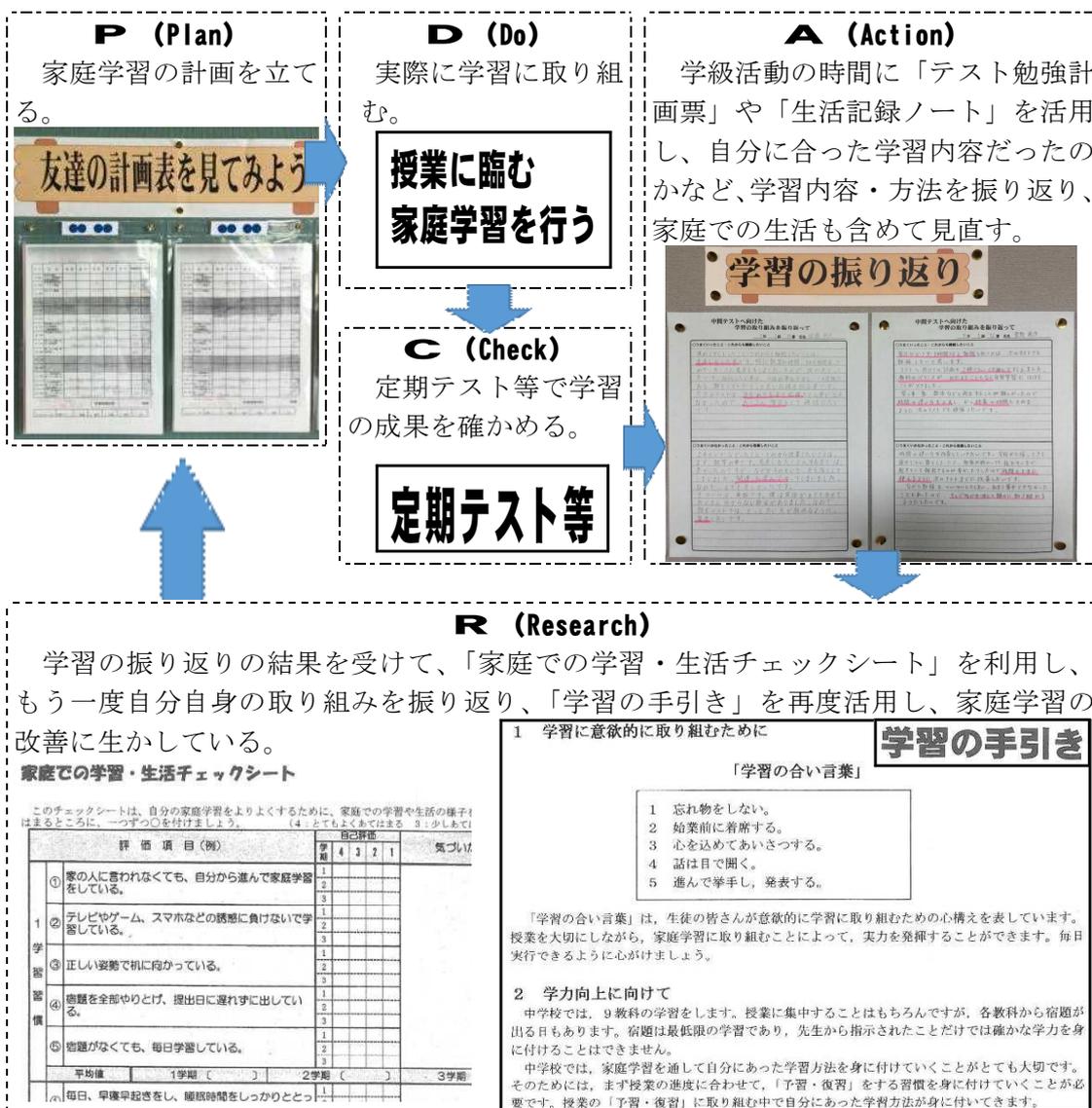
学校全体で生徒の「自己マネジメント力」の育成に取り組んでいる。また、中学校区4校の教師と保護者が、家庭学習について共通理解を図っている。

1 取組① 共通理解を図り指導しています

(1) R-PDCAサイクルによる「自己マネジメント力」の育成

① 生徒の学びのサイクル

年度当初に「家庭学習スタンダード」をもとに改善した「学習の手引き」を配付し、活用することで、R-PDCAサイクルを学校全体で推進している。



② 教師の「授業改善のサイクル」

生徒が主体的に学習に取り組むためには、教師の授業力向上が必要不可欠である。そこで、「授業スタンダード」を活用した授業改善、全教員による授業研究の実施、各種テストの結果分析による課題把握など、教師自身もR-PDCAサイクルを通して、生徒と共に「授業づくり」に取り組んでいる。



2 **取組① 協力・連携体制を築いています**

(1) **中学校区4校での共通の取組**

中学校1校と小学校3校において、小中連携会議を年2回実施している。昨年度は各学校から「学習の手引き」を持ち寄り、内容の再検討を行い、共通理解を図り改善を図った。

今年度の第1回会議では、5つの分科会に分かれこれまでの成果と課題をもとに協議が行われた。分科会ごとに共通実践事項を決定し、今年度1年間を通した中学校区4校の取組について、共通理解を図った。共通実践事項については、保護者にも学年便りや保護者会等で周知し、学校と保護者が一体となって実践できるようにしている。

- 【共通実践事項】**
- 第1分科会「小中連携」
笑顔であいさつ 広げよう元気
 - 第2分科会「生徒指導」
ゲーム, スマホは1日1h, 21時以降はやらない
 - 第3分科会「学習・進路指導」
チャイム前着席
学び合いをしたことを振り返る
 - 第4分科会「特別支援教育」
すべての児童生徒の学びやすさを追求
 - 第5分科会「体力向上」
いろいろな体験・運動の機会をもつ

(2) **学校ホームページの積極的な活用**

学校ホームページにおいて、生徒の学校生活の様子を保護者や地域に向けて配信している。学校行事など特別な場合だけの配信ではなく、普段の授業の様子についても積極的に配信することで、生徒が学校において、どのような学習をしているのかを知ってもらうことができ、家庭での学習環境づくりや心の支えに結びつくよう工夫している。



家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴	「課題量の調整」と「進路指導による家庭学習の意識付け」
-------	-----------------------------

二本松市立岩代中学校

【取組の概要】

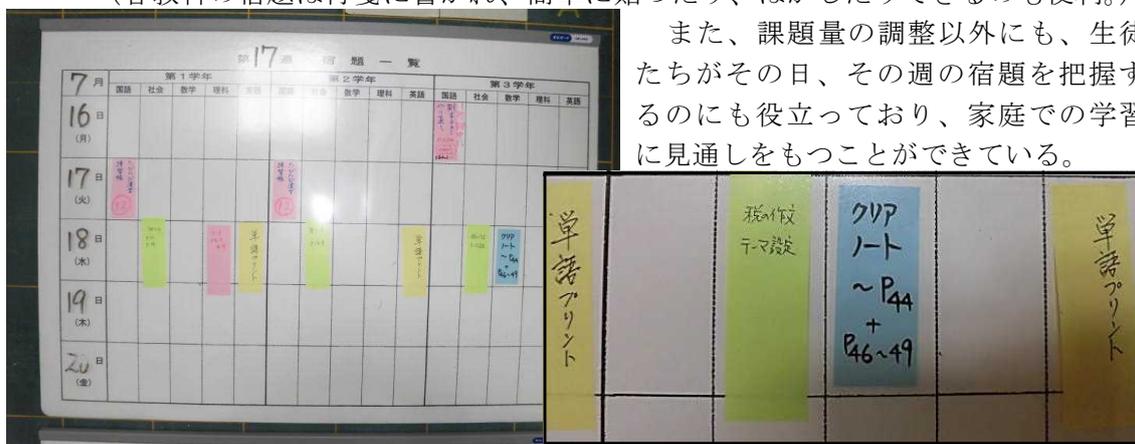
宿題等の課題量の調整を、各学年・各教科で行い、生徒たちに提示している。また、上級学校訪問など進路指導を充実させることをとおして、授業はもちろん、家庭学習も含めた学習意欲の喚起、高揚を図っている。

1 取組① 共通理解を図り指導しています

(1) 課題量の調整

職員室前の掲示板に宿題一覧を掲示。各教科、各学年の宿題が一目で確認できるようになっており、教員間で課題量の調整を行う際の参考になっている。

(各教科の宿題は付箋に書かれ、簡単に貼ったり、はがしたりできるのも便利。)



また、課題量の調整以外にも、生徒たちがその日、その週の宿題を把握するのにも役立っており、家庭での学習に見通しをもつことができている。

(2) 長期休業中における部活動での学習タイムの設定

長期休業中は、家庭で過ごす時間が多くなり、家庭での学習がなかなかコントロールできない状況になりやすい。

そこで、部活動の前後に学習時間を設定し、課題に取り組みさせることで、その後の家庭学習につなげる取組を行っている。

2 取組② 授業と家庭学習をつなげます

○ 基礎学力コンテストと家庭学習

各学年、それぞれ5教科の「基礎学力コンテスト」を年1回実施している。

各教科とも知識・理解及び技能を中心とした出題となっており、家庭学習において、繰り返し学習することを通して、学習内容の確実な定着を図るとともに、「わかった」「できた」という達成感や成就感を味わわせることもねらっている。成績上位者には、表彰を行い、その頑張りを称賛している。



3 取組③ 協力・連携体制を築いています

○ 学校ホームページの活用

基礎学力コンテストの様子や中間・期末テスト等の予告、各教科学習の意義、生徒の学習への取組の様子、生徒の進路選択への支援の必要性など、学校ホームページを通して、保護者等への話題提供と意識を高める働きかけを行っている。



4 取組④ その他の取組

(1) 将来に夢を馳せる進路指導の充実

3年生が2日間に渡って、大学や専門学校等の上級学校訪問を実施することで、生徒が自分の進路選択を考える上での参考にする機会としている。

《1日目》福島大学：図書館見学とキャリア教育の講義

ハローワークの方から働くことの意義についての講義

《2日目》FSGカレッジリーグ：見学、体験

生徒が進路選択する上で、自分の将来像を思い描くことが大切である。しかし、材料がなければ具体的なイメージがもてないばかりか、考えるきっかけすらつかみにくいのが現状であるため、上級学校訪問を行っている。これがきっかけとなり、日頃の何気ない出来事にも自分の将来と結びつけて考える機会が生まれるため、家庭学習に対する向き合い方も変わってきている。



(2) 生徒の自主的活動によるノーネットデー

過剰なネット利用により家庭における学習時間を圧迫している状況が見られる。その問題を解決するために全校道徳を実施し、自分たちの課題としてとらえさせ、解決策を話し合わせた。それを踏まえて、生徒会がネット利用のルールとしてとりまとめ、臨時生徒会総会でルールが制定された。「1のつく日はノーネットデー」となったほか、定期テスト2週間前からホップ・ステップ・ジャンプのノーネットデーを段階的に設け、家庭学習に力を入れることになった。また、保護者にも学校だよりやホームページなどを活用して、協力の要請を図っている。



全校道徳の話し合いの場面



臨時生徒会総会の様子